

本草圖譜

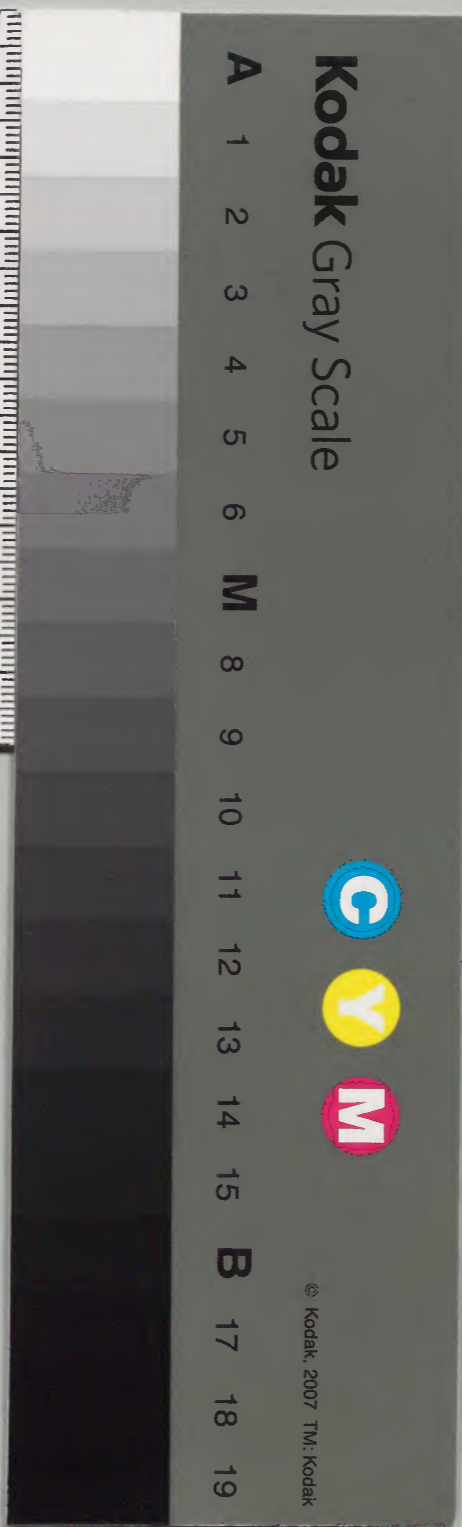
卷之七十五
七十六
六

和書門			
類	號	函	架
三	六	六	
四	五		
冊			

內閣文庫			
和書類	號	冊	函架
三	六	六	
四	五		
九	六		
冊			

和書
S
28

內閣文庫	
番號	和 366
冊數	45 (35)
函號	196 189





本草圖譜卷之七拾五目錄

青島倉庫

白芍藥蓮

部 水果類

白芍藥蓮

一 同

嵩開

一種

湘妃蓮

三 一種

天竺白蓮

一種

白芍藥蓮

五 一種

白芍藥蓮

一種

白萬々蓮

六 一種

西湖蓮

一種

廬山白蓮

七 一種

萬葉蓮

一種

白碧臺蓮

一 種

白葉蓮

本草綱目卷之七拾五

一種 大和綿 九 一種 茶椀蓮 十

一種 君子小蓮 一種 茶椀蓮

一種 通絲紅蓮 二 一種 雙頭蓮

一種 雙臺蓮 蓮房 十三

荷葉 十四 荷鼻

敗荷葉 十五 衰荷

本草圖譜卷之七拾五

東都 岩寄常正著

果部 水果類

一種

白芍藥蓮

白川候蓮譜の圖花豊よ〜と辨圓く満開する時芍薬の如し花の本葉ある「赤芍薬牡丹等の如し白色よ〜と辨の裏は青し〜」



前条満開の圖



本草綱目 卷之五十五

一種

相如蓮

自園子栽中子必の物
花の形芍薬子似て外
瓣大子内辨細し白色
子微し五百あり



本草綱目卷之七十五

一種

天生白蓮

白川候蓮譜
の圓花の形
芍薬に似て
内の瓣外の
瓣共尖し
り白色に少
し黄にたり



一種

白芍薬
蓮

同上の圓花形前より似て
内の細瓣前条より大く
白色にして外背内黄あり



一種

白萬々蓮



同上の圖花形前
茶の似て白色の
内外共黄色と
帯べり

一種

白萬々蓮

同上の圖花形
芍薬に似て瓣
の先内く外半月
内黄色と帯
へり実の形尋常
の物と異なり実
を房の外に出る



一種

西湖蓮

同上の圖花形天竺
白蓮子似て白色
内黄色外青色を
帯へり実を前条
子似て房の外
出たり



一種

一種

廬山
白蓮



同上の圖花形白
萬々蓮子似て
内黄色外青色
を帯へり



一種

白碧臺蓮

同上の圓花形
西湖蓮に似て
淡青を帯
へり実を房の
外に出で菊の
花に似たり



一種 每葉蓮

志村氏の圖全射小蓮の
類より花の形尋常の
糸子似て淡紅色なり花葉
の莖の亦淡紅を帯



一種

大和錦

白川候蓮
譜の圖花
少く茶碗
を以て類
して瓣は円
こありて淡紅
色に実とかく
房中三三四
の顆あり



一種 君子小蓮

同上の圓花彩色
共前条に似たり

一種

茶碗蓮

同上圓花
少く瓣の數
少く先尖り
淡紅色より
実ハ三四顆
を結へり花
の本は綠色
の帯あり



一種

茶碗蓮

志村氏の園花
葉共こ小さく
葉の裏淡紅
色花辨内く
淡紅色なり



一種

通糸紅蓮

白川候蓮譜
の園花葉共こ小く
辨細く淡紅色本
子微志青色を帯へり
芍葉こ似て青色紫色
の帯り



一種

雙頭蓮フタトウ

志村氏の圖回書に武州羊加の芝
加茂民家の池中に産るといへ
り花葉共に小く花の形ヨリ尋常
の品に似て臺葉に二花並び生ず
淡紅色なり



一種 雙臺蓮

同上の圓蓮書子寛政十一年
谷中三崎法住寺の池中
産石と云へる花形前
条々同し



蓮房

金房 各物
方言

同上の圓蓮の實の入たる
蜂の巣の如き物



荷葉かき

えすのし

蘭山の説子初生の小葉おやまんと云ふれを荷錢かぎ名と云其次子出る葉を稍大子て水面を浮ぶをかきついと云これと藕荷かき名と云其次子出る葉は莖長くして水上に出るあたけはと云これと支荷かき名と云是は藕の節は兩割して莖を出し其は葉其一は花はななりと云

荷か鼻び

いよの葉の正中莖の附と云るなり



本草綱目卷之五十五

敗荷葉方附

志村氏曰秋月十五至半盛半衰也



本草綱目卷之五十五

衰さい荷か
志村氏蓮壽
引白氏文集

同上カ國あきかま秋霜を經
て葉房とヒコ老して
褐色子変まる物り





本草圖譜卷之七拾六目錄

果部 水果類

一種	一種	一種	一種	一種	一種
野慈姑	クワイ	クワニハス	カツタイヒシ	アマクサヒジ	ヒメヒシ
十一種	七一種	五鳥芋	三一種	三一種	一一種
ハナヲモダカ	吸田クワイ	クロクワイ	ヒシモドキ	ヲニヒシ	ヒメヒシ
十一	九	六	四	三	二

一種

ふりかけ

阿錄諸果

津符子

未詳

必思答

未詳

甘鈕子

あじはくこ

楊搖子

未詳

海梧子

未詳

木竹子

あじはくこ

同

物印忙子載る
所和四種

十四

櫓罟子

未詳

羅晃子

未詳

櫓子

物印忙子載る
所和物

十五

夫編子

未詳

白縁子

未詳

繫彌子

未詳

人面子

未詳

黃皮果

未詳

四味果

未詳

千歳子

未詳

候騷子

未詳

酒杯藤子

未詳

簡子

物印忙子載る
所の物

十六

山東

未詳

隈支

未詳

靈牀上果子

十七

本草圖譜卷之七拾六

東都 岩崎常正著

果部 水果類

芡實

ヒシベカンベ 蝦夷

チリビエリユス羅句

ウアトルノテン和蘭

芡 本草和名
引原名苑 葎葉猪鼻

水栗 モリウ 薜落 ハシ 共ニ
目上

穿萍 ヤシ 名物
方言 菱角 カシ 牧荒本草

水栗 珍玩考引
此後記

舍利虎迦梵語

所々湖水中ニ生モ水底ヲ菱ノ角ナリテ初夏苗ト生テ葉水面ニ浮不
葉三角ニテ淺鋸齒ナリ莖ハ肥テ兩節ノ股ニ似テ夏月葉間ニ黄白花を
開ク葉下ヲ實ト結ブ荊蓐藤ニ似テ大ナリ兩角ナリテ刺ナリ嫩緑老黒形又臍
の飛子似たり其殼硬ク一ト厚ク中子白色因
あつ食ふべト菱と燒るといふ一ト云々火外の上品と云



一種 乙をいし

種尾列より来る葉の
形ツルハ白花ヲ開ク葉
の間と実と結と四稜ナリ
て刺ナリ大々荊蓐の如し

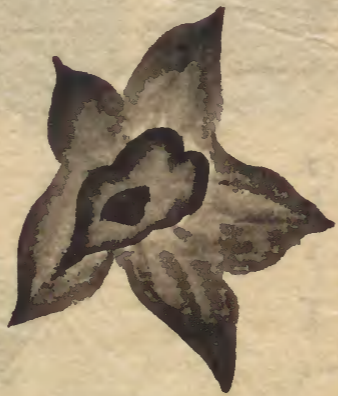




一種 おまじ

あまじ

葉の形皆同一實
葉のりて其名忍池子
多



一種 かりまじ

葉の形同し
其実刺り
花あり其莖
或は四或は
六或は八枚一
かり花多く莖
かく根子あり甲也



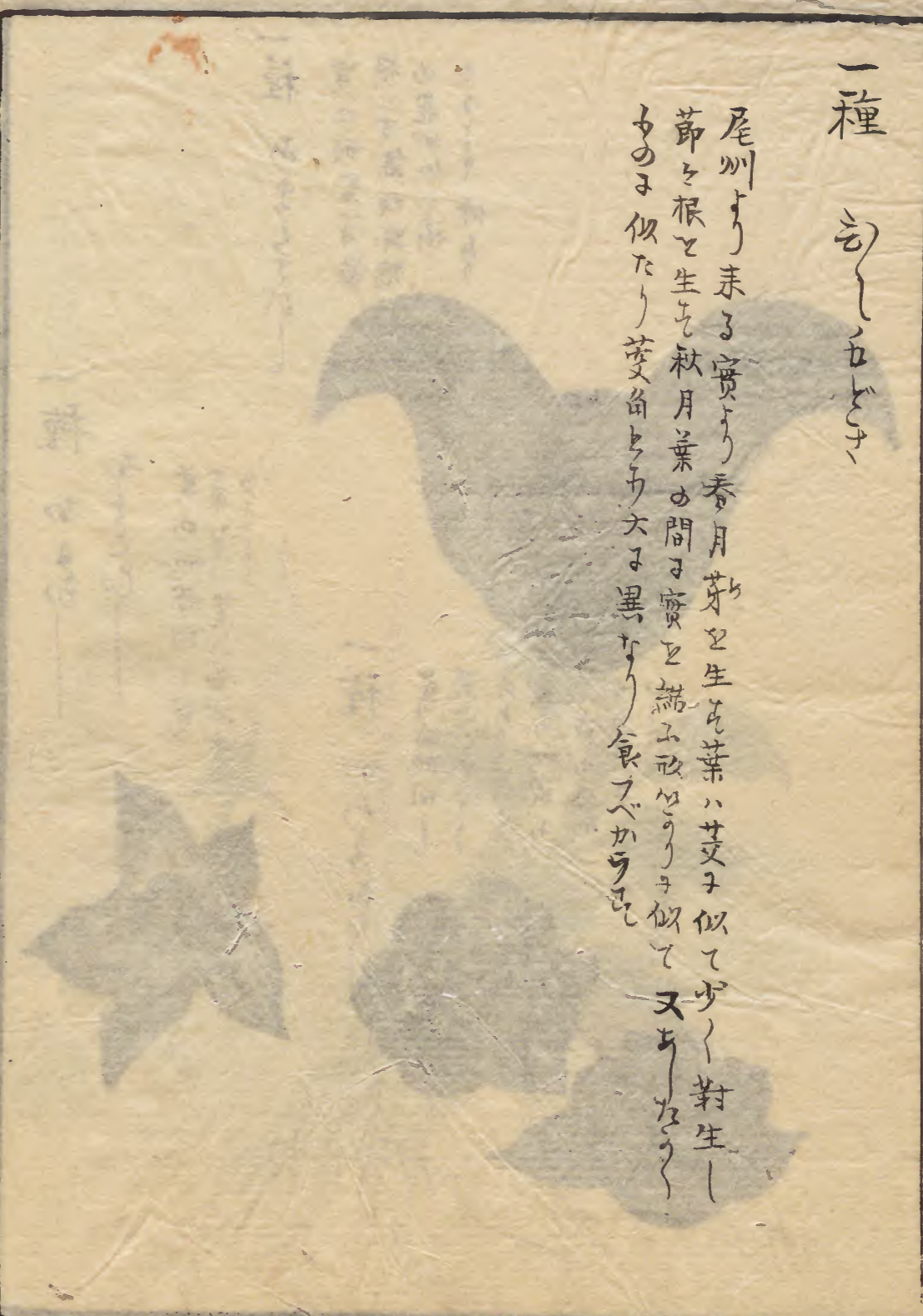
一種 あまじくびし

実の形堅く寸餘
横二寸餘硬如
の飛が如く禍
色子々條あり



一種 芍薬

尾州より来る實より春月芽と生を葉ハ莖子似て少く對生し
節と根と生を秋月葉の間に實と結ぶ政々うり子似て又ありなう
もの子似たり莖節より大子異なり食ふべからず



芍薬 芍薬子 和名 芍薬子 和名 芍薬子
本草 芍薬子 和名 芍薬子 和名 芍薬子

芍薬子 和名 芍薬子



本草綱目 卷之二十六

かつるひやん 心やうをば げん(仙) 臺

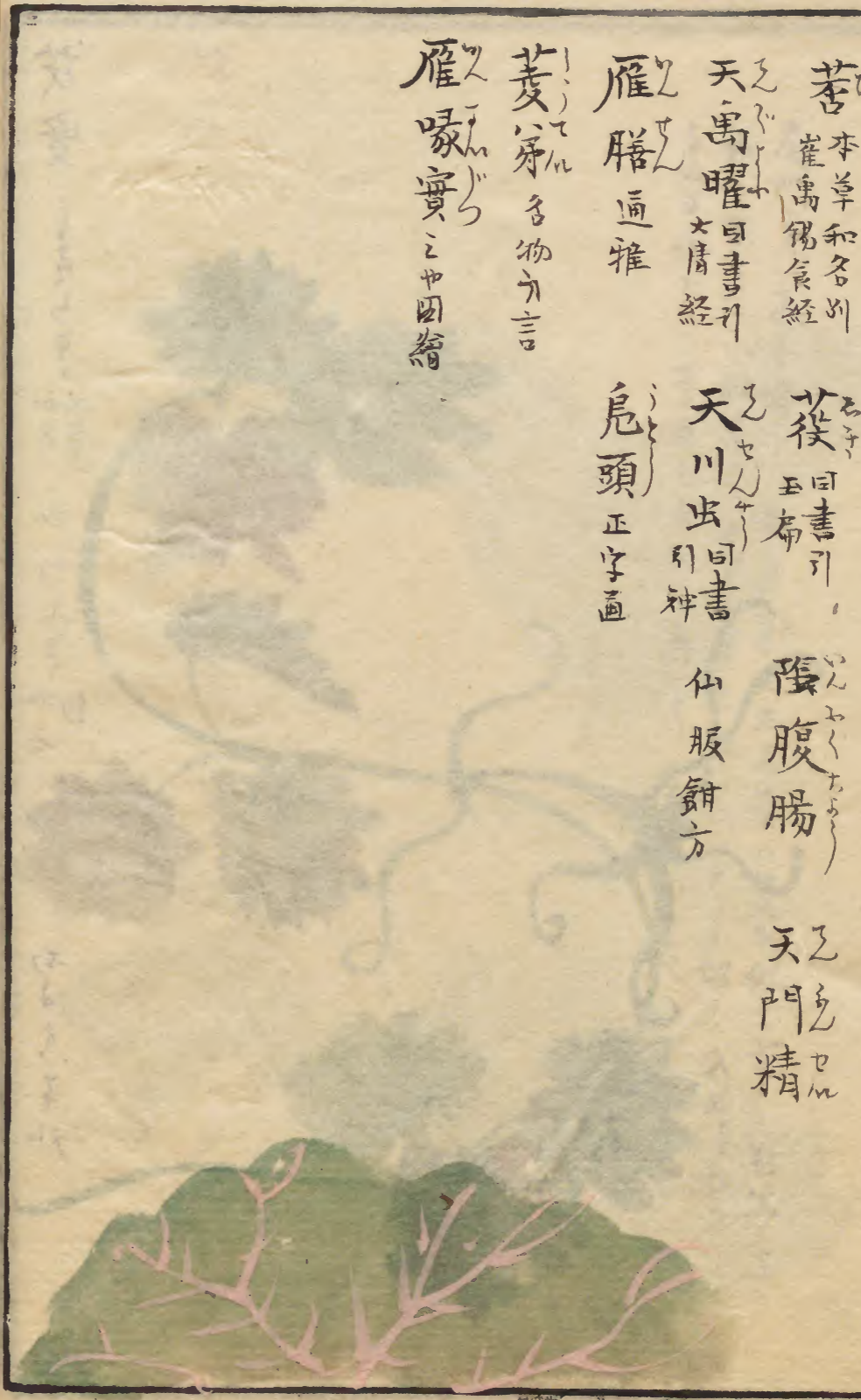
苦い 本草和各州 崔禹錫食經 菰こ 同書引 玉布 陰腹腸いんぷくちよう

天馬曜てんば 同書引 天清經 天川虫てんせんちゆう 同書引 神 仙版餅方 天門精てんもんせい

雁膳いんぜん 通雅 鳧頭ひがず 正字通

菱しん 牙が 各物方言

雁喙いんすい 實じつ 之し 也や 田でん 繪



水陸すいりく 蝦しや 湖こ 茨し 西せい 湖こ 志

雞頭けいとう 實じつ 放ほう 荒かう 草



本草綱目 卷之二十六 五

茨實

武州本根川下惣州中山邊の水澤中子生も葉少蓮ニ似て大二三尺初生嫩
絞り水面ニ浮ふ面深緑色元澤あり刺多し背少紫色子一節脈高く
起りて蘆根をひも莖ハ筆管如くヨリて軟り長短り水の淺深より漢土より
カ世葉を採り食ふ正字通子藕指茶と名つゝ中細き葉ありて蓮葉と同一根わ
鼻根ありて藕力如きありて六月花あり莖頭一葉あり其莖山より刺多し赤大
り開く時ハ四瓣因紙紫烏の嘴子似り其林漸く大なりて二三寸葉赤ハ中子數
十子アリ形蓮子の如く黃褐色より小正田より大者豌豆の如く穀と去し中子白
肉あり此茨實ナリ

烏芋

くろくろくろ ちりちりる 福剣 上 同

あゆらまげ仙 蒲通 芋本 蕪経 藷道 原

水芋本草名 王銀同書 鉄本草 蒟蒻本草

烏芋ハ水澤中ニ生キ莖葉燈心草ニ似て大ニ莖葉ニ似たり細脊頭頭尾滑く
尖らねして固一中空より白穢の節あり色深紫夏月穂ハ生キ黒色白葉あり
て長さ一寸餘根ニ鬚あり秋ニ至りて根鬚ハ未ニ塊と生キ取慈姑ニ似て硬く皮黒色
肉生熟とて食ふべし

烏芋



慈姑

本草 和名
くわん 和名

くわん
つわれ 前

地栗 江府志

大蘇 通雅 葉名



葍 正字

田 圃 沙 南

煎 搭 草 救 荒 本 草

水 慈 菰 上 同



慈姑

水田に栽こ葉ハ剪カ或燕尾の如く一根叢生し夏月稀に花あり三瓣白色穂子枝を分て開く秋冬間根傍に白根を土中に延テ赤子塊と生を内して扁く青緑色より一ア苜芽の長サ一寸計ナリ

一種 吸田くわん 子あくわん

備前吸田村ヨリ産する物なり 秋收慈姑と同じ夏月葉の間を茎と抽て玉枝を分て花あり三瓣白色大サ六七分黄緑色の苜芽の根塊と同じ大サ指の頭の如く長サあり正内の者あり

慈姑の和名鈔澤野を書するが誤なり わりくわん

一種

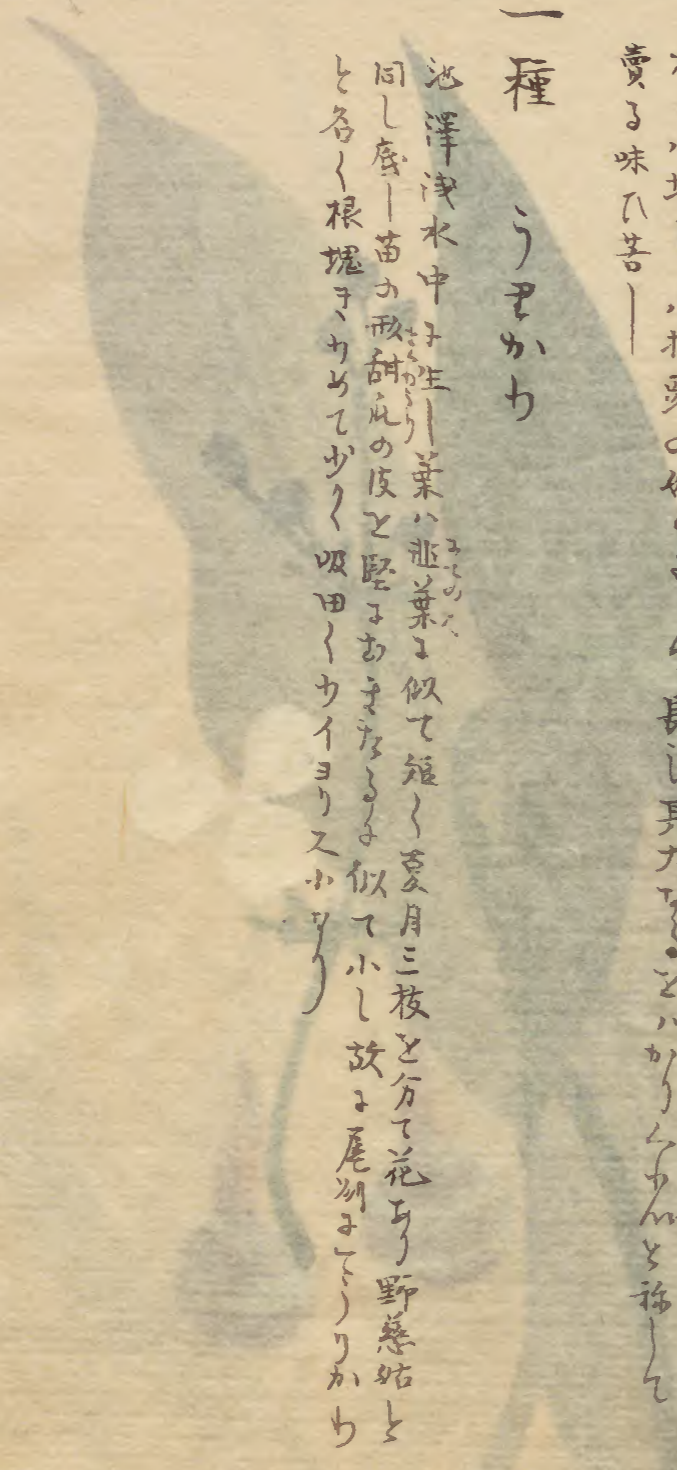
あるべんつらんがくと和 野慈姑 末齋 宝鑑

田野水中に生を葉ハ慈姑に似て小なり細し花又かせり
一種 やゑおちがたか

花の秋迄力如く白色葉を少し葉ハ野慈姑の如くよりて頗る肥なり前条共子根に小塊あり小指頭の如くよりて長し其大なるはかり今やんと稱して賣る味ハ苦し

一種 こうまかり

池澤浅水中に生葉ハ韭菜に似て短く夏月三枝を分て花あり野慈姑と同じ底に苗の秋甜瓜の皮と堅くあまなるに似て小し故に尾別子と稱しかりと名く根塊より少く吸田くワイヨリスハナリ



一種 吸田くま

一程 吸田くま
此草は、山に生ずる。花は白く、葉は緑なり。根は塊根なり。根を煮て、水に漬けて、飲む。此草は、山に生ずる。花は白く、葉は緑なり。根は塊根なり。根を煮て、水に漬けて、飲む。



一程 吸田くま
此草は、山に生ずる。花は白く、葉は緑なり。根は塊根なり。根を煮て、水に漬けて、飲む。





一種
 やゑおろし



一種
 野葱姑

一種

うまかき



附録諸果

肥
鈕子

ふうんたごみ

是物舶来して形胡桃に似て縹紋ありて





香花果
中山
實同



木竹子
白くちし

蒲桃
南
嶺
同

蒲桃
臺
志

香果
上同

本草綱目卷之七十六
木竹子
蒲桃

木竹子

近未琉球より来る葉披長枝葉對生し高四五尺夏月枝の梢に五七花あり立辨淺綠色白花の葉長ふして形金線桃ひょうやり子に似たり後實は結て枇杷に似たり大に熟すと黄色味ひ甘し肉中に核あり又枇杷に似たり嶺南雜記に形如踈丸大如枇杷高六餘寸花開一族如針葉長寸計五月熟色青黄中虚有核如彈丸摘之有聲肉鬆而可食なり

一種

物印忙子載る処四種

山嶺南雜記に一種名香果形少圓長肉鬆甘香異常といへる物これなり

同上



本草圖譜 卷之十六 十五



同上

同上



同上

本草圖譜 卷之十六 十五



樞子

ヒキエエロホルヲ和蘭

細印忙子載了可勿





間子
物印忙子載る可の物

本草綱目卷之七十六

靈林上果子

靈前及一備たり諸果より

